

飯館村の田圃の土壌調査

石井慶造¹⁾、松山成男¹⁾、山崎浩道²⁾、寺川貴樹¹⁾、長久保和義¹⁾、結城秀行²⁾東北大学大学院工学研究科¹⁾、東北大学サイクロトロン・R I センター²⁾

1. 目的

田圃の土壌は、リサーチレポートNo.5で報告した校庭の土壌より軟らかい。そこで、田圃の土壌中における放射性セシウムの汚染状況を調べた。

2. 方法

福島県相馬郡飯館村砂須虎捕地区（2011年5月17日 空間線量率（高さ1m）：5.6 μ Sv/h）の農地のあぜ道の土壌を5mmずつ削って、その放射能を求めた。

3. 結果（平成23年5月25日発表）

図1にあぜ道の土壌中の放射能の深さの関数での分布を示す。

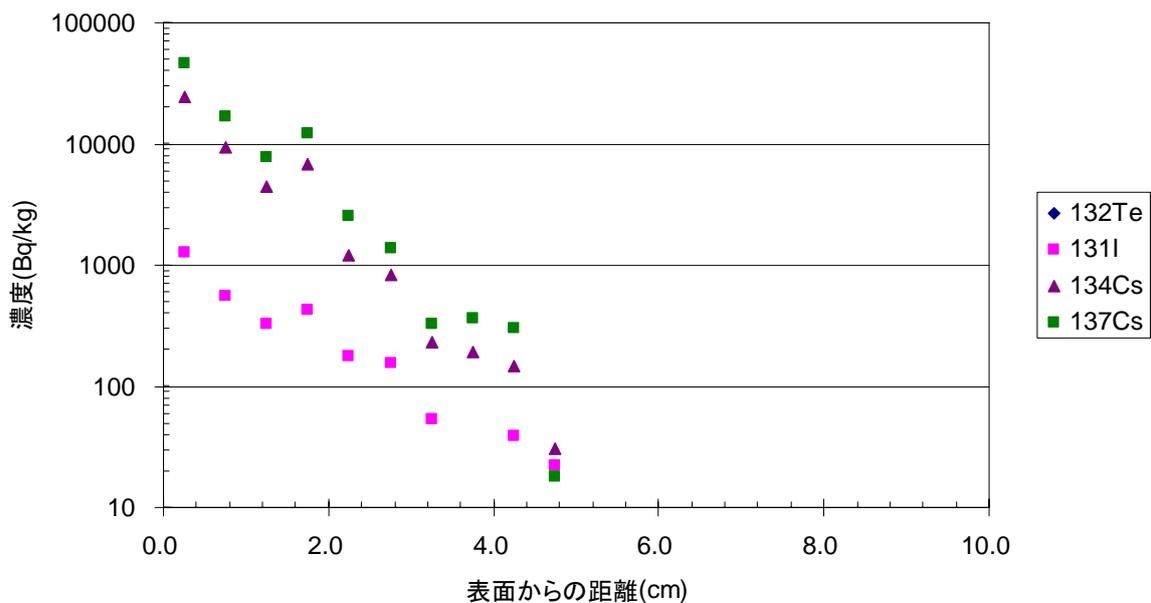


図1 福島県相馬郡飯館村砂須虎捕地区の農地のあぜ道の放射能分布

図1より、2011年5月17日の時点では、深さ2cmの汚染土壌を除去することにより、十分に除染できることが分かった。リサーチレポートNo.5で示したように、ヨウ素131とセシウム137の分布は異なり、セシウム137の方が表面から急激に減少している。

作成者：石井慶造